

若狭氏講演内容

こんにちわ。私は今から24年前、ここで第1回熊山に関する研究発表をした覚えがあります。その題名はなにか。それは「古代国家形成の謎」という題で、ここでやった覚えがあります。それから25年間、歩いているうちに私は大変な遺跡の存在を知る事ができました。それもひとえに熊山の遺跡に取り組んだために熊山の魂が私に乗り移ったといえますか、あそこへ行けここへ行けと。指示されながら25年間歩いてまいりました。その中で多くの人にお目にかかりました。

北京の中国社会科学院の、今現在は清華大学の先生なのですが、その先生とお会いし、そして多くの方々にお会いしそして今日の私をここまで大きくしてくれたのは、そのの方々ではなかったか。と今感激しながらお話しさせていただきたいと思います。本当に今日まで、私のようなわがままな男をですね、ここまで引っ張ってくれた多くの方々に感謝しながら私は、持ち時間精一杯お話をさせていただきたいと思います。

熊山の遺跡がなかったら、恐らく、この壇上に立っておりません。熊山の遺跡が私をここまで運んでくれたのでは。と私は自負しております。いかに、熊山遺跡が秘境のものであったかということは、これからそれを胸に抱きながら研究を進めるとします。まず、考えないといけない事は、今日も新聞に出ておりました「卑弥呼の墓はあの桜井市の箸墓ではないか。」とこういう話でしたが色々な説があります。しかし、それが果たしてそうか。と言えないんです。なぜ言えないかと言うとそれは真実がわかってないからだと思うんです。で、真実を掴むには色々な角度から研究しなくてはなりません。私も古代と大きな言葉を使っていますが、こういう勉強をよもやしてみようという気はなかったんですね。やっているうちにだんだんとそうやってきたわけで。まず、そこで歴史を解明し或は歴史を知りそれを考えていく上では何がなんでも1つ原点は何か。という事を掴まなければならない。私はそれをずっと考えておりましたら、今日この席にもおられます事務局長の山崎さんがワタシの考えに共鳴してくださり、ワタシは山崎さんの話はあまり聞きません、しかし山崎さんは私の話をよく聞いてくれました。そんな中でふと私が感じた事は、「紀元2600年というのは、昭和15年にワタシは小さいときに聞いておりますが、日本の歴史は一体どこから始まるのかと。

皆さんご存知のように、日本の歴史の始まりは奈良である、あるいは大和であると。それに私は学者じゃないから反論しません。しかし私の主張は述べてみたいと思います。それは、何かといたら、私たちが住んでいる古代の吉備の国。ここが私は大和朝廷が出来上がっていく、原点ではなかったのか。と私はそう思うんですね。そして、その中に忘れてはならないものがあるんです。それは、太陽の巨石文化というものがいつの時代にもこの列島に入ってきたか。そして入ってきたものが、土着の民族。つまり日本列島に最初から住んでいた人たちとうまくまとめあげながら、ひとつの骨格ができたのではないかと、よくご存知のように天照大御神が岩山に隠れて誰かがひっぱりだしたとか。色々ありますね、それはお話だと思うんですね、ワタシは古代の人たちが実際に体験、経験した事は、わたしは「太陽」だと思うんですね。その太陽の巨石文化がどういう文化なのか。それを申し上げますと、太陽巨石文化のはしりと言うものは今からおよそ7000年前、BC5000年ですね、チグリス、ユーフラテス河の両側地域一体のメソポタミアにその起源を知る事ができるんですね。メソポタミアに農耕技術が生まれたので、農耕技術を主とする文化が彩文土器を有していた。この彩文土器が、実は日本の伝統の中の歴史を塗り替えているんですね、私はそういう風に考えております。で、この中にはコシキ型土器。これは九州の鹿児島県に鹿児島湾からちょっと西にえみしの沖に、コシキ島という島がある。ワタシはここへ最初の日本列島に流れ込んで来た人たちの到達した遺跡があるのではないかと。と思います。

そして、その古式土器、石包丁、腕輪、それから稲、女神像、言語、文様、いろいろな文化を築き、世界に分布したのであります。ワタシの考えでは、日本に伝播したのは、BC2000年、今から4000年前、つまり縄文時代の中期後葉からこうようでしょうか。この熊山の東側の私達が住んでいる備前市の西片上に、以前、縄文の住居跡が出ました。これが4500ぐらい年前の物ですね。この住居跡は縄文の末期と推測している私の考え方に果たして合うのだろうか。とそれを教えてくれるのは何も言わない、ただ山に固まっている石が教えてくれるのか。それは、そうではないんですね、太陽巨石文化というもののの中に石組みっていうものが、太陽とか月とか星とか、それを計っていくだけの仕組みをちゃんと作ってるんですね。特にそういった物には資料の中にもございますが、ご存知だったら行ってみてください。岡山市、岡山県立美術館ですかね、あの裏に天神山という山があるんですね、昔の文化センターの一角に素晴らしい石の固まりがあります。それは、完全に宇宙との更新をしている文化なんですね。これを太陽巨石文化と言っているわけですね、それから、この列島の中にはいろいろな形の巨石、磐座があって神様が降りて来た精霊地であるとか色々な事を言われますが、そういったものが残されておりますね。特に添付資料の中にA,B,C,D,Eという風に分けております。

太陽巨石文化の発生と社会分岐、瀬戸内海では岡山県笠岡市の巨石、磐座の配置、これは近所のたかしまという島をご存知ですかね。笠岡の港を出て約30分ほど沖に出ますと、たかしまという島があります。そこには素晴らしい遺跡が残っております。それから一宮の吉備のなかやまの巨石、このなかやまには、鬱蒼として木々の間から見え隠れする大きな石、磐座があります。ここでもやはり、古代の人たちは太陽を拝み、星を拝み、自分たちの生きる道は何なのか。という事を残しているんですね。また機会がありましたら、一度吉備のなかやまへ足を運んでみてください。それで、その中には大変な遺跡も残っております。

実は、熊山遺跡の形態というのを、なぜ私がやったか。という事を一言、申し上げておきましょう。私は20数年前に、熊山遺跡から出て来た、あの遺跡が盗掘されます。と昭和13年6月の梅雨の終わりに、山の上に上がって壊したんですね、まあ、壊したからこそ私も勉強出来たんですけど。よし。それならワタシは遺跡の分析ではなく、一体あいう真四角な3段、4段積み上げたのは何が目的か。そこに目をつけて私は真夜中に1人、片手にナタ、片手には棒を持って、腰には磁石を持って上がったんですよ。そして、上がってはならない遺跡の真ん中に上がって磁石を当てましてね、そしたらどうも遺跡というのは真四角なんだけれども、北に向かって傾いてるんですね、その角度が15度だったんです。ワタシはなんで15度傾いているんだろうと考えておりましたら、古代の天文学をやっぱりやらなきゃ、この問題解決できないなと思い、色んな本を呼んで歩いてきましたが昔のメソポタミアで、天文学を取り入れ、農耕技術を盛んにし、農業を盛んにした人たちの、面白かったんですね。木火土金水 その木星が12年に1回もとの位置に戻る習性を持っていたんですね、それを西アジアの古代天文学者は長いこと測定して地球を12等分した。円を12等分したら30ですね、これを12宮という、牡羊座、牡牛座、などありますねそういう物を編み出したわけです。そして次にこの木星を春分に制定したわけですね。黄道と赤道が交わるところが春分と言うのだから。

ところが東アジアの天文学者とは、冬至点。ですね。春分点というのは、だいたい、図を書いてあると思うんですが、これが東でこれが西。これが、ここで計ったのが西の天文学者。これから30度下がったとうじの日ですな。この冬至の日に今度は木星を計ったんです。そうするとそこに、15度というと東アジアの天文学者は根よく根よく計ってるんですね。それで今度は西アジアは、12等分し、東のアジアは24に切ったんですねなんで24にしたかという15度。冬至点で木星を計ったらしゅんぶん点との間に15度の差ができたんですね。それを私に教えてくれたんじゃないんですよ。私が熊山遺跡の形態から編み出したんです。それは間違いかもしれませんが、しかし私は真実・・・実際にそうですから。それで何故、15度つけたのだろうか。そこにはですね中国、古くから西アジアから発生した天文学的な法則から或は東アジアの古代天文学者がゆっくりと、自分たちの生活の場に行きながら、何を作ったかという、ちょっと説明がおかしいんでそろそろ、事務局から叱られるんですけども、「道教」これを知っておられますか？道教っていうのは、中国での民間宗教なんですけど、知っておられる方おられますか？ちょっと手を挙げてみてください。・・・知っておられんなあ。これは、やっぱり道教から話をしなくちゃいけませんね。実は、道教が我々の日本人の日本の骨格ではないんですよ、日本の国を作り上げて行く、基礎的な物がこの中国の道教なんだと思うんですよ。

その道教が、あの熊山遺跡の中にはまっていたと言う事を提唱したんですね。ちょっと普通だったら誰も信用しないと。従って、この熊山遺跡は道教という事になるということですね。まあよくご存知のように、時間がありますからゆっくりやりますわ。要するにですね、熊山の中には石積みの遺跡がですね、35、或は37とかあるんです。この中でもひときわ大きいのがA、或はCとあるんですが私はAを捕まえて24年間、研究したんですね。どうもね、山や後ろからね、「また来たの。」とそういう声がしたんです。普通、男性だったら「また来たんか。」ですが、「また来たの。」これは女性ですね。それで、これはひょっとしたら、日本人が1番興味を持っている卑弥呼ですね。卑弥呼がひょっとしたら寝てるんじゃないか。というな考えがひょこっとしましてね、私は卑弥呼に対する研究はしていません。しかしながら、その中国の道教思想、これが遺跡の背後にあるということですね。知った時の驚き、嬉しさ、それと今日見えになっておられる大守先生の吉備津彦神社。あの吉備津彦神社のお手元にあります冊子があります、その中に古代太陽神殿の原点という事で私が書いている図があるでしょう。帰られてゆっくり読んでください。今、読まれてると話が聞こえんようになってしまう。まあ、そんな事でね、やっぱり私はね太陽の巨石文化の流入と古代太陽信仰というのを皆忘れてるんじゃないかと。太陽が東から出たら西へ出る。当たり前の話じゃという事ではなくてですね、年もいくほど、朝起きたら今日一日も無事に。日が沈んだら、ご苦労様といって年寄りの手を叩く姿をよく見ております。熊山遺跡がそういう事を私に教えてくれて、あなたも元気は良さそうだけれどもべらぼうに走るのではなくて、じっくりと腰を据えてこの熊山遺跡を研究しなさい。と、研究したら走り歩かずじっとしときなさい。という事を教えてくれたのが熊山遺跡だったんですね。

熊山遺跡から出て来たものについての色々な考証、自分なりの思いを書いた本を6冊出しました。ありがたい事に、自分の事をあまり言ったらまた大守先生に叱られるかもしれない。私が最後に書いた本ですね、1991年の12月22日、しかも冬至の日に出版した本が、これが県立博物館と備前市にもありますし、岡山県下にはどこにでもあります。この本がありがたいことに、ハーバード大学の研究図書館にも入りました。で、入ったという事は一体ほんならハーバード大学の研究者は手紙もくれませんわな。あなたの研究は素晴らしい、と手紙でもくれたら、もう私そこらじゅう飛び歩くだらう。そういう事もありましたが、要するにいかに太陽というものが大事だろうと。で、私はいつか書いた著書を吉備津彦神社の宮司さんにお渡しして、もしよろしかったら皆さんにお分けしてください。とそこへ訪ねてきた同志社大学の「おがわこうよう」先生の弟子で、今は就実大学で教授をやっておられているカ・ジョンソンという朝鮮の方なのですが、その方がおがわ先生の手紙を持って来られて、それについて私は、ただ単にこういう研究したんでって、たいした事はありませんと。ところが、その小川先生が、私が次の本を書く時に「はっかんをよせて」という言葉をいただいたんです。それをちょっと読んでみたいと思います。

『太陽と巨石文化の流入と古代太陽信仰。太陽は、毎朝東の空に姿をあらわし、中央にのぼり西の空に移り、やがて姿を消す。姿を消すが地球の自転を説いたコペルニクスは当時の宗教家から批判され迫害を受けた事も周知の事実である。人類の多くは地球が円球であることを知らなかった。太陽は大地のあるところから出現し夕方には地中に姿を没する事になる。やっぱ太陽さんも1日中照ってますから疲れるんでしょう。それで夜になると地中に潜っていく。そういう事なんじゃないですか。明日もまた太陽は姿を見せるのか。もし太陽がなくなったらどうなるのか。昔の人間にとって太陽の存在は、謎でありしかもなくてはならない大なる神である。とつまり太陽がもし太陽の神だったと。その太陽の神がどこに現れるのか、それが太陽巨石文化、つまり磐座という事ですね。』

磐座というのはいろいろな形があるんですが・・・原始、古代における太陽信仰というのは、太陽そのものの存在への切実な祈りから成立しておるんですね。だから夏至から冬至。そうすると太陽は60度の角度でもって宇宙をぐるぐるしてるんですね、あ、ぐるぐるじゃないですね。地球がぐるぐるしてる。で、60度の中の太陽の動きを誰がどうやって捉えたのか、そこが重点だと私は思っております。だから夏至から冬至に至る太陽の軌道に敏感であったと。これすごく敏感だったんです。東経と北緯の動きがあるんですけども、太陽が出なかったら古代の人たちは生きた心地がしなかったでしょうね。太陽が出るとああ、良かったと。これで私は今日も頑張れると。昔から言うでしょ、今は電気がありますが、昔の人は恐らく夜があけると目を覚まし、暗くなれば寝て一杯飲んでね。お酒を飲むという事は、太陽がいなくなって寂しいその寂しさを紛らわすために飲む。これがお酒でしょう。これは私の考えですけども、そういうことで太陽巨石文化の成立を考える我々は過去の太陽の歴史の中で見直していく必要があるんですね。』

この文は私が執筆した1991年12月発刊、本書に寄稿いただいたおがわこうよう先生の言葉でご紹介しときます。

それから次に木点の12宮という、これはここに書いてありますが、ゆっくり読まれたらわかります。早く読むとね、どうしても忘れる。何で私はこんな事するんだろう。線ばかりがあっちこっち・・・やっぱり古代人が太陽にものすごく敏感であったという事はお解りでしょ？今の人は太陽より月が欲しい。あんまり大事にしてないね。特に漁師さんはお月さんを大事にしている。これは潮の満ち引きに関係がある。大きな月が出ると今日は沖に出られんから家におられえ。今度、ええ形のお月さんが出たら電話するから出て来られ。出て来たら車エビでも何でも取れると。そういう宇宙との交信というのはすごくやっているようですね。

それで後はこの図ですね。太陽巨石文化の発生分布。それから、遺跡の方向性それから図のBというのは、たかしまにある。これは皆さん1度行きましょう。素晴らしい遺跡がある。それから図のCというのはですね。これは大森先生のご先祖様がおられました、、、ここに竜という神を奉ってます。そしたら6月22日に、出る太陽は何の太陽です？冬至？夏至？これがわからんとは。私、言ってないかな。これ夏至なんです。夏至の太陽はものすごく照るんですよ。だからみんなが病気になるんです。それから冬至ですね。冬至になると太陽が弱くなってくる強くなったり弱くなったりする太陽。うまい具合に人間を操ってますなあ。そして人間もついていく。それで、これが冊子の中にちゃんとありますから、私が説明せんでもいいんですけど、この線上に熊山があるんです。はっきり言いましてね。で、北と南、私もわからなくなるんです。それで、ついでに事なんで充分話しがしとるようで抜けてるところがありますね、やっぱ。やぶさめって知ってますか？これはね、吉備津彦神社があるとしましょうか。これが本殿、こうなってますね、鳥居がね3つあるんですよ。まず、こっから入るんです。ここから入る時に皆さんは夏至の太陽を背中に受けて入ってくるわけです。それで、これでここにこういうね的を作って馬で走ってバーンと撃つんですけど、これが何かと言いますと四角、これが地、丸はこれは天。これは天と地のね、天と地で弓でやるんですね、収穫した物は守れるように自分たちの生活が安定するようにと、天、地の神これを守るための儀式がやぶさめなんですね。1度、10月のお宮のお祭り（第3の日曜）、ぜひ行ってください。現在の宮司さんがお見えになるはずなんです、

宮司さんの顔を見ると、なるほどなあというような顔をしておられます。私もね、実はねこういう風にニコニコ笑いながら腹をたてないで話をできるようになったのは事務局長のおかげだと思っております。今日はね、持ち上げておりますよ。どこかで落とされますよ。

で、この図を見たらわかります。吉備のなかやまには2つのお宮があるでしょ？どちらも、吉備という大神を奉っている。かたや彦神社と、あそこには今、吉備津彦神社の参道、ちょうどやぶさめをする所を通りますとね、彦様、ひね様というトイレがあります。何であれ、彦とひねと書いたんですかね。まあ一緒にはできませんから書いたのかもしれませんが。まあそれはいいとしてですね、私は色々と、これも熊山の研究の過程でこれを知ったんですけどね、全国でも少なくとも夏至の太陽を受けてね鏡に太陽が入る。それを巫女が拝む。これはやっぱり中国の道教思想だと思いますね。そういう仕組みの神社が、まったく・・・私は天照大御神が日本の最高の神である、と確かにそれ、あ、ちょっとこれは余談ですが天照大神は男神ですか女神ですか。私もどっちかわかりません。ようわからんもんがどっちか言う方がおかしいわ。ところがあれは男神だという人もおられますが、ある人は、あれは火見子だと言うんですね。火を見る子で。それはいらんことになるんですが、一応、私の話は収着するんですが、最後になりますが、ここにかけなかったんですが、皆さんに見ておいた方がいいなという磐座を紹介しておきましょう。

それは、まず大安寺という所知っておられる人、手を挙げて。はいはい、それから天神山ですね。それから、日本では4番目か3番目かの大きさで造山古墳。岡山の新庄というところにありますね。私、絵をかくのが好きなんですけど今日はかけませんわ。あがとるんでしょうかね。こうしんやまと言うの知っとられる人手を挙げて。皆さん、よいう行っとられるんですね。山登り好きなんですね。こうしんやまとつくりやま古墳はどういうふうに結ばれていると思います？南北、ぴったりと結ばれております。そこまで言うたら熊山もですね、丸山古墳、熊山も南北ぴたりなんですね。まあ、まっすぐ線を引きゃあどこへでも当たろうというのではなしに、これは、つまり円墳で、これは後墳なんですね、後墳と円墳ですね、これはまるいんですわ。円と後ですから、これは地方でしょ、こちらは天でしょこれが中国の道教思想なんですよ。こういう事をですね、私いかに力を入れて言うても学者はそうかとは言いません。そりゃ、学者には学者の考えもあります。私はあえて学者とケンカをしたり諍いを起こすつもりはありません。ただ、私の考えも聞いてください、ということです。てんげんちほうのりっていうのがね、大変なんですよ。これから私の残る日数、天が呼ぶまではこの事については絶対、外しません。とことん無理していきます。そして、私はいつかは卑弥呼に会いに行きたいな。と、ちょっとこれは、、、笑　つまり、こういう事をいにしえの人々は平気でやったんですね。大きな石を山に持ち上がったたりね、海辺でそこで築いたり、そんな事したわけがない。と言われるんですけど、実際にしてるんだから仕方がない。私が考えたんですけど、山を削るんですね、削ると高い山程ね岩がこうね。だいたい標高の、熊山は海拔580ですが、普通の磐座があるところは200ないかという所がたくさんあるんですね。よー見んといかんのですよ、だけどねあんまり見ると目つきが悪くなる。あの人は何を見ようんじやろうかと。確かにね、山に入ったら素晴らしい石がありますよ。大安寺、天神山、それから高島それからもう1つ、これを言わんとはじまらんのですが、児島湾にやっぱりたかしま言うのがある。

児島湾の高島はね、これが向こうの対岸としたらね、日本列島のような感じになっとるらしんですよ。これは昔から神武天皇が祈りをしたとあんな小さな場所にすね何千人来て、入れるんだろうかと。まあわしらは入るからお前らは海で遊びよれとでも言われたんかもしれませんな。まあいづれにしても、そういうような仕組みが残っております。悲しいかな、これはある人にぶち壊されて、中から色々でてきたんです。で私は何遍も歩いてね、色んな物を拾いました。拾ってはね。岡大に行ったり理大の方に行ったんですが、これは江戸時代の器じゃがと言われて、全然時代が違いますからね、まあそういうような事をして今日はここに来ました。

ほんとにね、もういい加減には脱線せずにすばっと決めるだけ決めてぱつとやめ！とそのような話が向こうからびーと入るんですが要するに、人のやってないことをやる。良いことだと思います。それから人に喜ばれる事をやれる事が幸せなんですね。そういう事を覚えておいて。私は熊山遺跡に出会った事をよかったなと思います。　以上です。



若狭会長の熱演



謎の熊山遺跡 国指定史跡